



- ①広島平和記念式典に参列
- ②安田女子高校の生徒から被爆桜の説明を聞く
- ③資料館で原爆が投下された午前8時15分で止まった時計を見る
- ④平和記念公園に千羽鶴を奉納

「広島平和記念式典小中学生派遣事業活動報告」

# 平和を伝える

TOPIC2



## 広島で感じたことを伝える

広島に原爆が投下されてから72年となった昨年の8月6日、気温37度を記録した猛暑の中、噴き出す汗を拭いながら市内全小中学校の代表者33人が広島平和記念式典に参列し、平和への祈りをささげました。

今年度で8回目となる『広島平和記念式典小中学生派遣事業』に参加した生徒らは、式典前に被爆桜がある安田女子高校や平和記念公園、平和記念資料館を訪れ、多くのことを感じ学びました。広島で「見て」「聞いて」「感じた」ことを持ち帰った彼らは、各学校で平和への思いを伝えました。そんな彼らの言葉と、戦争で家族を亡くした方の思いを紹介します。

曾祖母から戦争の話聞いていたけれど、戦争や原爆というものがどういうものか、よく知りませんでした。今この年齢の私が参加できるという機会を大切に、戦争のことを詳しく学ぶため、派遣事業に参加しました。

式典当日、72年前にこの場所で原爆が投下されたかと思うと、急に怖くなりました。「戦争は絶対やってはいけないことで、良いことは一つも起きない」ということを実感しました。

▲ 11月6日  
佐津川美結さん(豊岡南小)

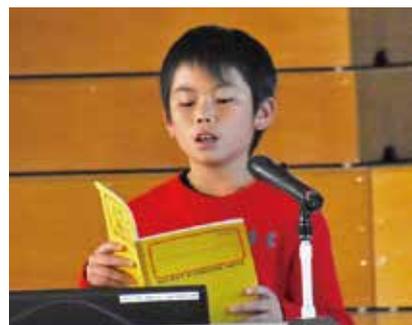


▲ 11月6日  
豊岡南小学校の全校会礼での報告

原爆の恐ろしさを自分の目で見て学びたいと思い、派遣事業に参加しました。

資料館を見て、原爆が落ちた時、広島の人たちは怖くて何も考えられなかったのだと思いました。平和とは、家族と楽しく暮らせることです。自分たちにできることは、友だちなどとけんかをしないことです。自分がされて嫌なことは人にしない。今回学んだことをこれからの生活に生かしたいです。

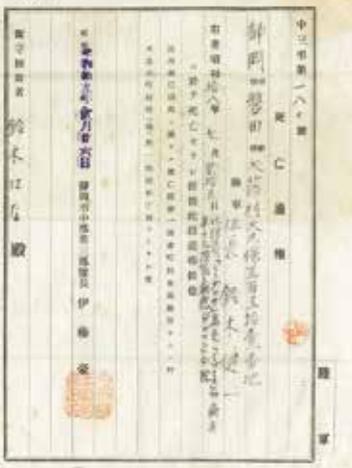
▲ 10月30日  
藤田希大さん(磐田西小)



▲ 10月30日  
磐田西小学校の全校会礼での報告

※被爆桜・・・広島市の安田女子高校で生き続ける、原爆の被爆樹木に認定された貴重な桜。被爆地では75年間は草木も生えないと言われた中、翌年の春に花を満開に咲かせた。同校生徒会が接ぎ木で増やし、桜の命を後世に伝えている。

◀健一さんの戦死を伝える  
死亡通報



昭和17年2月末の寒い日、当時11歳だった鈴木さんは、自宅に当時の大藤村役場の職員がやって来て「おめでとうございます」と、召集令状を置いていたことを今でも鮮明に覚えているそうです。

召集令状



磐田市遺族会女性部部长  
鈴木 あい子 さん

戦争のない世界がいかに幸せか  
ということを感じてほしい

「父には戦争に行つてほしくないけれど、誰もそんなことを口に出すことはできませんでした。父は令状が来てから2週間足らずで静岡の連隊に入隊することになり、村議会議員さんや先頭に親戚や近所の人たちで、中泉駅（現在の磐田駅）まで2時間半かけて見送りに行きました」と当時のことを語ってくれました。

一通の通知

昭和18年8月、戦地フィリピンで父健一さんが亡くなったことを知らせる「死亡通報」が届きました。当時、健一さんは37歳、残された母はなさんは33歳で、あまりにも早い別れとなっていました。

「父親の写真で唯一残っているのはこの写真だけですね」

「父には戦争に行つてほしくないけれど、誰もそんなことを口に出すことはできませんでした。父は令状が来てから2週間足らずで静岡の連隊に入隊することになり、村議会議員さんや先頭に親戚や近所の人たちで、中泉駅（現在の磐田駅）まで2時間半かけて見送りに行きました」と当時のことを語ってくれました。

「広島へ行った子どもたちは、きつと何かを感じ取ってくれたと思います。当時の詳しいことは分からなくても、現地・現物を見ることで、あの時代があつて今日があるんだということを認識できたと思います。今の子どもたちには、戦争のない世界がいかに幸せかということを少しでも感じてほしいですね」



▲唯一残っている健一さんの写真



▲8月15日  
磐田市平和祈念式での報告

初めて広島を訪れ、資料館で原爆投下直後の焼けただれた衣服を見た時の衝撃が、今でも心に強く残っています。そこで「原爆は絶対この世にいらぬ」ということを学びました。日々の平和の大切さに感謝し、安心して暮らせる世の中になることを願っています。

金原誠也さん（神明中）

原爆の被害を目の当たりにしたガイドさんは、涙を浮かべながら当時のことを伝えてくれました。私は、その方たちの思いを伝えていかなければならないと思います。

磐田はのどかで平和ですが、世界を広い目で見れば、平和とはかけ離れています。これから先、自分の幸せだけでなく、周りの人の幸せも考えられるような人になりたいです。そして、世界から原爆がなくなることを願っています。

増山千菜美さん（豊田中）



▲11月22日  
豊田中学校の臨時朝礼での報告

※磐田市遺族会女性部・・・戦争で夫を亡くした女性のために発足された遺族会婦人部を遺児に引き継ぐ形で、平成19年に発足された。